

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製造業	木材・木製品	製材業	9月中旬に発生した台風14号が九州地方を通過後、各地で原木価格が急騰している。幹線道路や林道の被災が大きかった県北地区や人吉地区での出材減少の影響で、当県南地区でも急激に原木需要が伸びている。他方、製品の方は荷動き鈍く当用買いが続いており、値下げ基調となっている。当分の間は原木高製品安の課題に苦慮しそうである。
	木材・木製品	製材業(プレカット)	10月の実績は前年比71%と大きな落ち込みとなった。予想以上の減少幅で、今後の状況に対して大きな不安が出てきた。円建てで行っている輸出に関しては、円安のためやや有利な状況が出てきたが、棟数はそれほど増えていない。国内の着工数は更に落ち込むと予想され、年度後半は厳しい状況になると考えている。
	木材・木製品	木製品製造業	原材料費、人件費、その他の経費すべてが増加している中、収益状況の上昇は見込めない。
	印刷	印刷・同関連業	印刷業界は値上げに対してそれぞれ工夫をしながらできることを実行している状況である。依然として景気が回復しきれていないので、受注が少なく、売り上げが上がらない状況である。
	印刷	印刷・同関連業	10月に入って洋紙がまた値上がりした。ようやくコロナも沈静化して受注も回復の兆しが見えてきたところでの値上げは、非常に厳しいところである。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	10月に入りようやく出荷が増え、前年度出荷数量より単月比130%増となった。4月から行った値上げが実績として積み上がり、昨年より出荷減、利益増となっている。3月の年度末までどれだけ出荷数量、利益が伸びるか期待したい。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	先月の状況と大きな変化はなく、昨年同月比71.2%と非常に悪い。累計でも52.1%と悪い。今期はこの様な状況の可能性有り。更にセメント、砕石、砂などの原材料の値上げもあり、材料費高騰と出荷減少の二重苦となる。今年2月に続き、2回目の価格改定を考えなければならない。
卸売業	卸商業	パート職員は年収を103万円や130万円以内に抑えようとするので、最低賃金の上昇に合わせて、人手が足りなくなってくる。年収を103万円や130万円以内に抑えるように働くので世帯収入は増えない。枠を増やすか失くすかしないと、それ以上稼ぐことはない。	
小売業	たばこ販売業	地方たばこ税は市町村の収入であるが、何もしなくても毎年自動的に納入され、一般財源であるためその用途は定められておらず、市町村が自由に使える貴重な財源となっている。今年も加熱式たばこの課税方式の見直しにより、5年連続のたばこ税増税となったが、一方で喫煙人口の減少を招くこととなり、結果的に地方たばこ税は減収に向かうことになる。現在、地方たばこ税を活用した分煙環境整備が進められているが、早急に全国的に展開していくことが望まれる。	
小売業	小売商業	当月はコロナの感染者が全国的に減少傾向となった事で、例年開催している創業祭記念セールに伴う企画イベントを実施し、集客と売上の増を図った。今年も持ち直し傾向となった前年の状況を維持し、集客・売上とも前年並みに推移した。物価高騰による消費の冷え込みで厳しい状況の中、せめて現状維持で良しとせざるを得ない状況である。西都市では市街地活性化に向け、昨年に引き続き、11月中旬から年明けまでの約2ヶ月間、商店街のアーケードを中心にプロジェクトマップングを絡めた「イルミネーション点灯」を大々的に実施予定で、今後の年末年始商戦の集客に繋げたい。	
小売業	LPGガス小売販売業	10月CP価格(サウジ通告価格)は590 <sup>ドル/トン</sup> (前月比△60 <sup>ドル/トン</sup> )。9月MB価格(米国産平均価格)+(米国物流経費80 <sup>ドル/トン</sup> )は598 <sup>ドル/トン</sup> (前月比△54 <sup>ドル/トン</sup> )。対顧客電信売相場(9月平均)は144.09 <sup>円/ドル</sup> (前月比+7.85 <sup>円/ドル</sup> )。原油価格については、欧米の主要銀行が相次いで大幅利上げを決定したことで世界的な利上げが世界経済を冷やし、原油需要の減退を招く、との懸念が広がった事により下落。LPG価格も下落したが、円安が24年ぶりの水準となった影響により実仕入価格はほぼ横ばいとなった。	

## 情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	商店街	宮崎市	物価上昇により衣料品への支出が減り、客数の減少が続いている。
	商店街	都城市	コロナが終息にむかって減少している中、人の往来はイベントなどの開催で増えてきたが、原材料の高騰がより一層激しくなり、各店舗の経営を圧迫している。早急な対応をして頂かないと小規模の店舗から体力切れを起こす可能性がある状況である。
	サービス業	観光業	約3年振りの通常の繁忙期同様の活気が戻ってきた。初旬はキャンセルもあり、今シーズンもコロナ感染症のために厳しいかと思っただが、修学旅行やツアーも動き出し、急に忙しくなったが、組合員にとっては嬉しい悲鳴である。引き続き、感染対策をしながら九州の観光の担い手として日々の業務に務めたい。
	サービス業	自動車整備業	車検の入庫台数は忙しいと感じる日が多かったが、前年比微増であった。
	サービス業	自動車車体整備業	材料価格の値上げが続いている。
	サービス業	不動産業	仕入価格の上昇で、工事価格の上昇が懸念される。
	サービス業	測量設計業	台風災害による組合員の多忙がずっと続いており、従業員の休日取得の問題が顕著になっている。
	建設業	管工事業	共同受注工事は堅調に推移しており、修繕工事は増加傾向、公道工事は減少傾向となっている。公道工事は減少は、新規の住宅等着工戸数の減少が原因の1つであると考えられる。 9月10日(土)に実施予定だった大淀川河川敷の清掃ボランティアは、コロナの感染拡大により昨年に引続き中止にしたが、コロナがやや落ち着きを見せ始めたことから、再度計画し10月29日(土)に実施した。組合員等総勢100名が参加し、大淀川下流右岸と八重川下流左岸の空き缶、ペットボトル等のゴミを回収した。同ボランティアについては毎年継続して実施したいと考えている。
	建設業	管工事業	従業員を募集しても事務系の応募はあるが現場系の応募はなく、組合員は人材確保に苦慮している。組合員から消費税インボイスに関する話が出るようになった。
	運輸業	軽貨物運送業	新型コロナウイルス感染症の拡大は落ち着いてきたが、油断できない状態が続いている。事業も停滞感が続いており、回復傾向が見えない状態である。燃料関係も高止まりの状態が続いており、組合員の経営を圧迫している。同業他社も同様に経費の増加に苦しんでいる。組合員の高齢化も深刻な悩みで、営業しても仕事の消化ができない状態である。
運輸業	貨物運送業	政府の燃料油価格激変緩和補助金は当初は年末を期限としていたが、来年1月以降の継続が決定し喜ばしいことであるが、依然として高止まり状態であるので、組合員の経営は非常に厳しい状況となっている。	